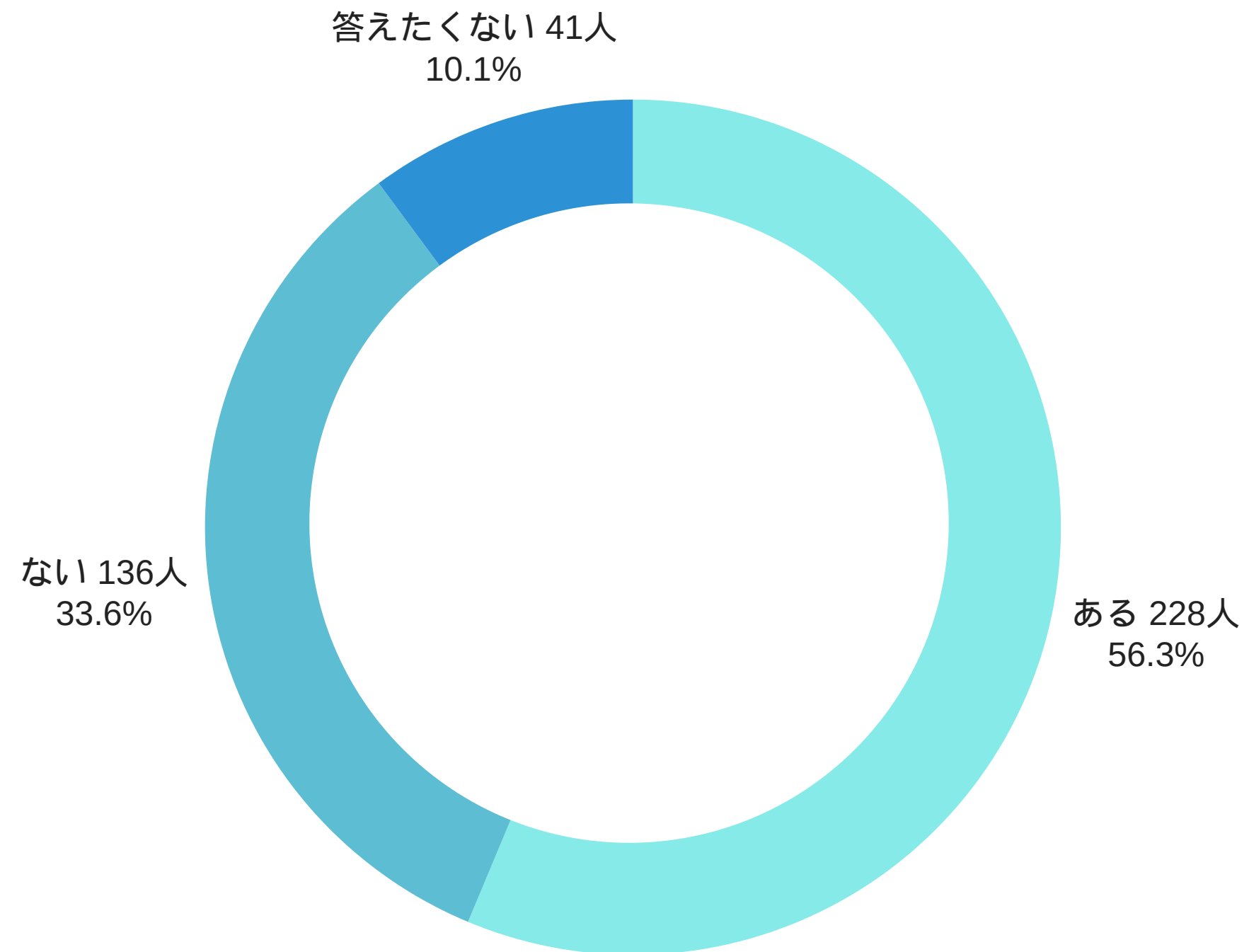


Q14. 「セックス（性交）」の経験がありますか？

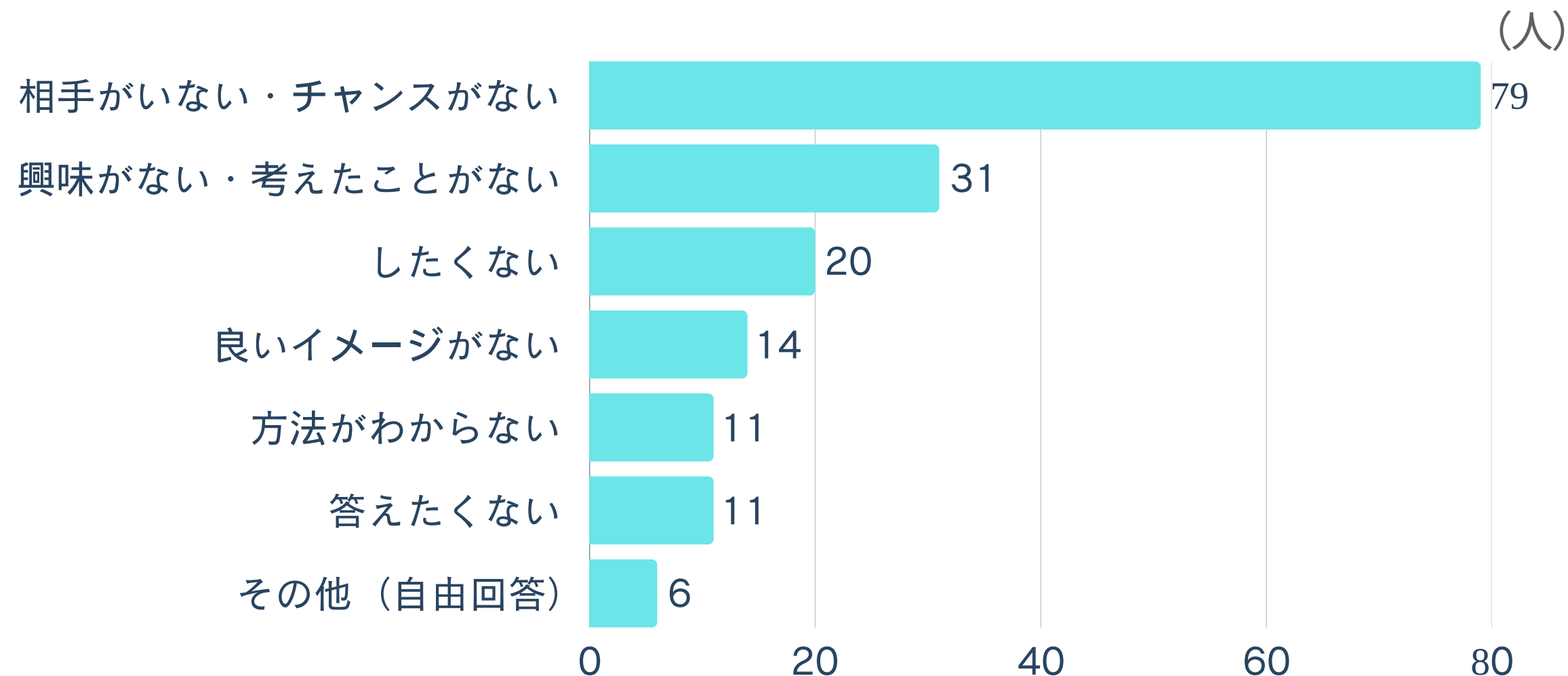
405人回答



Q13.「セックス（性交）」の経験が「ない」と答えた方

Q15. その理由は何ですか？（複数回答）

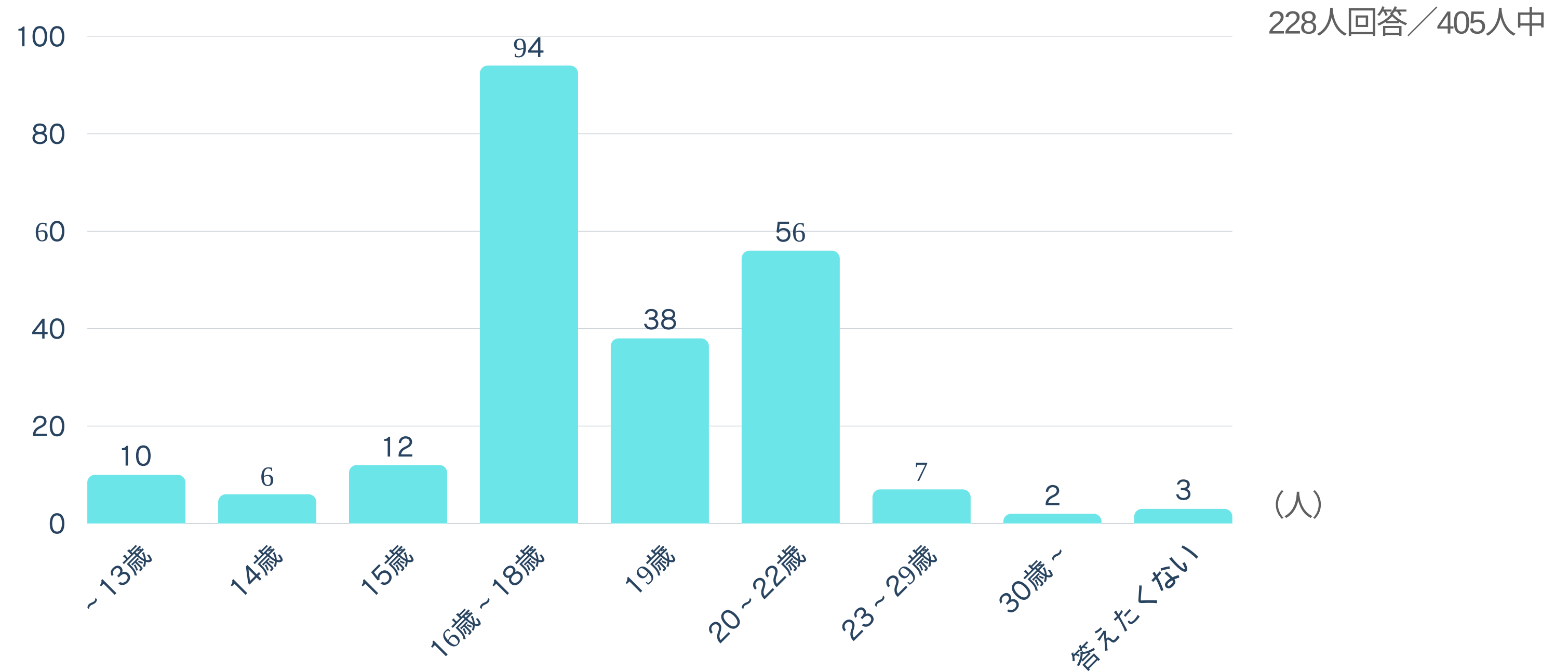
136人回答／405人中



その他（自由回答）

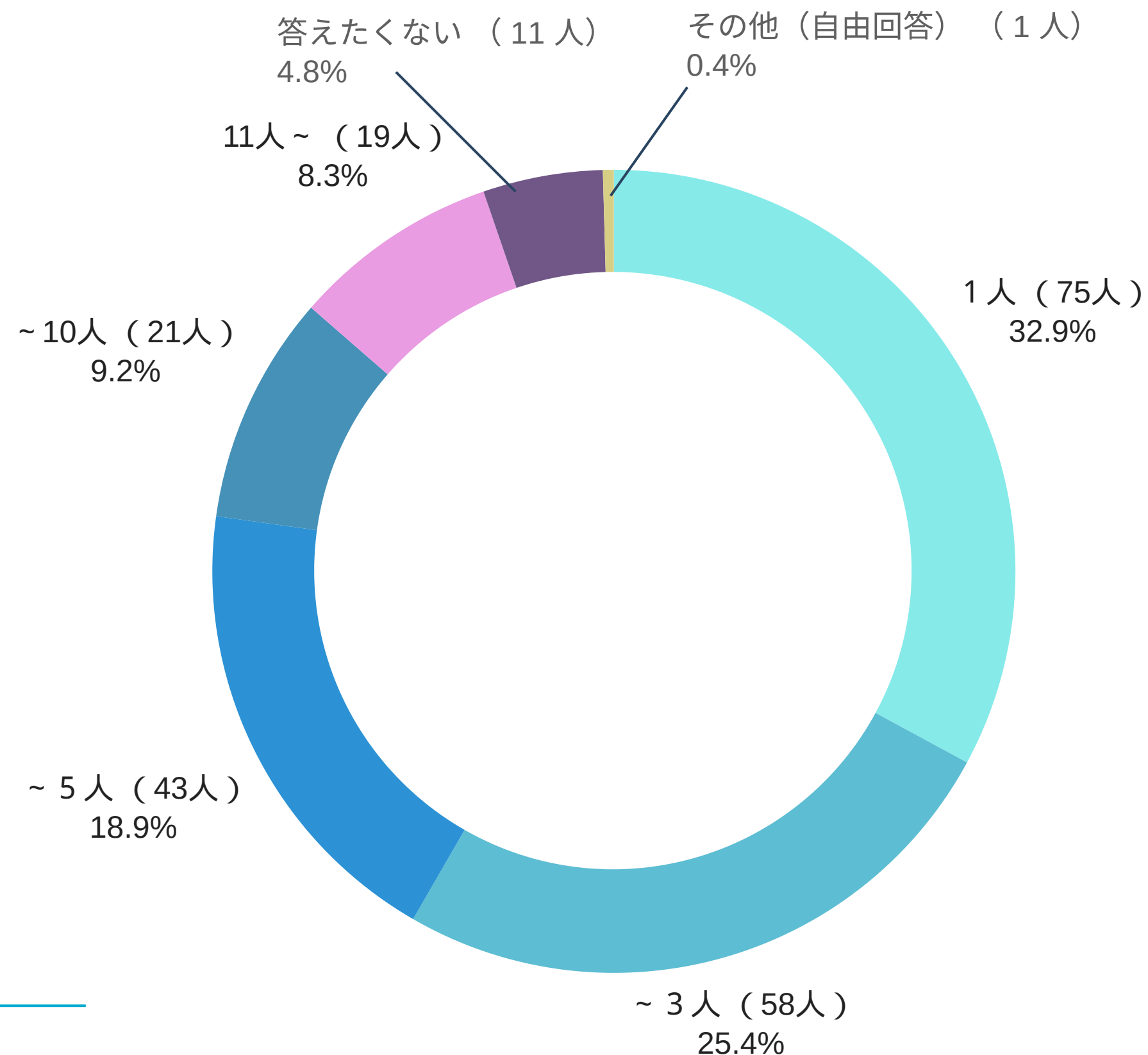
- ・就職など大切な時期だから
- ・(相手と)タイミングが合わない
まだ恋人と付き合った日数が浅く、その段階ではないから
- ・避妊道具があったとしても100%では無いと思うし、学生の間で妊娠したくないから。
- ・怖い
- ・相手の同意を得られていないから
- ・子どもが生まれるなど責任が伴うことだから。安易にするものではないと思うから。(特に性教育を受けていないのに安易に行うことは相手も自分も傷つけてしまうから)

Q13. 「セックス（性交）」の経験が「ある」と答えた方
Q15. 初めてセックスしたのは何歳の時ですか？



Q13.「セックス（性交）」の経験が「ある」と答えた方

Q16. これまで何人と「セックス（性交）」をしましたか？



その他（自由回答）

・たくさん

228人回答／405人中

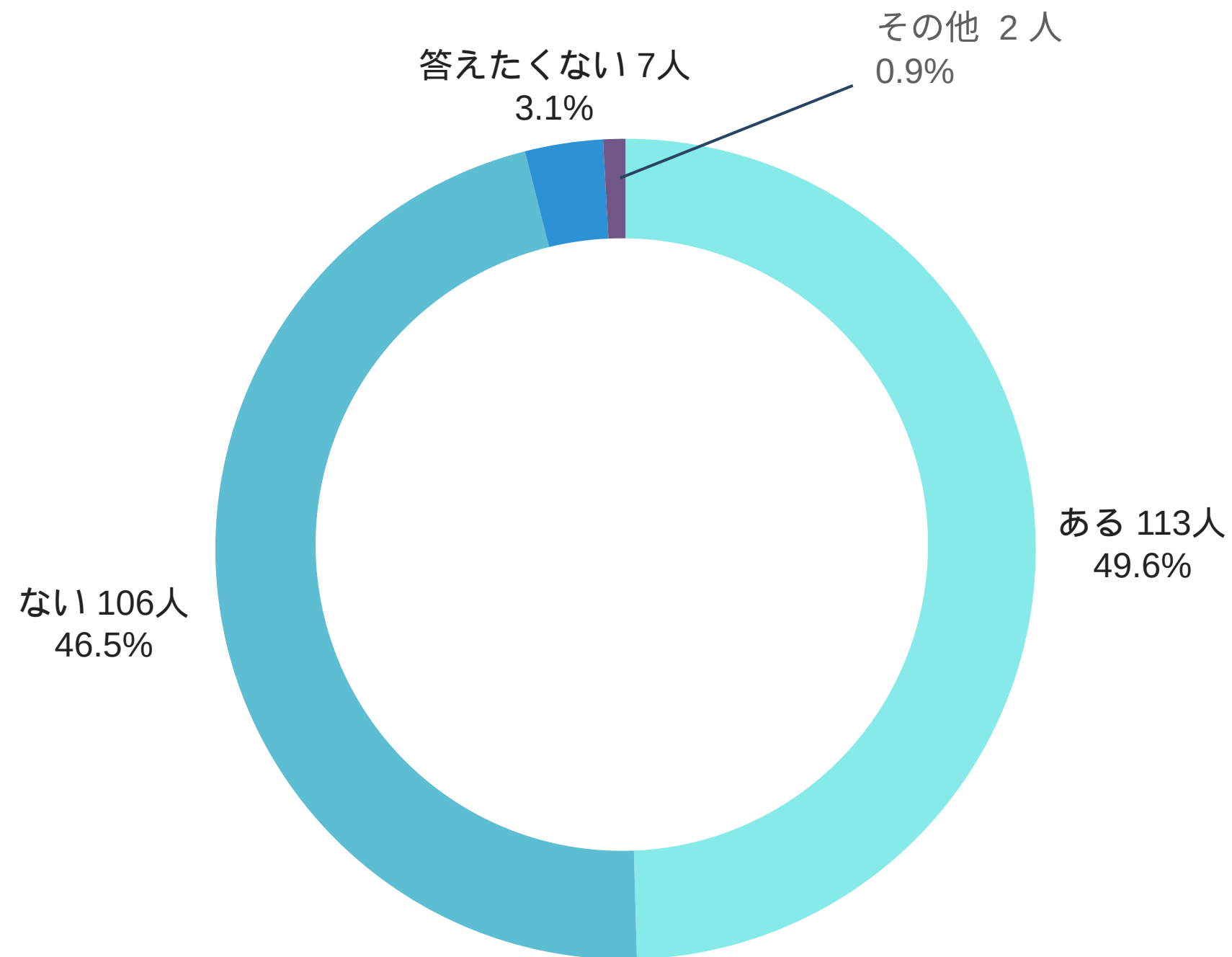
〈参考〉

グラフより、性体験人数の多い19人の初体験の年齢内訳

初体験の年齢	11人以上
～13歳	5
15歳	1
16歳	3
17歳	4
18歳	3
19歳	2
20～22歳	1

Q13.「セックス（性交）」の経験が「ある」と答えた方

Q17.「セックス」に際して、コンドームのサイズや装着方法、装着するタイミングなど、自分の方法が正しいかどうか、不安に思うことはありますか？



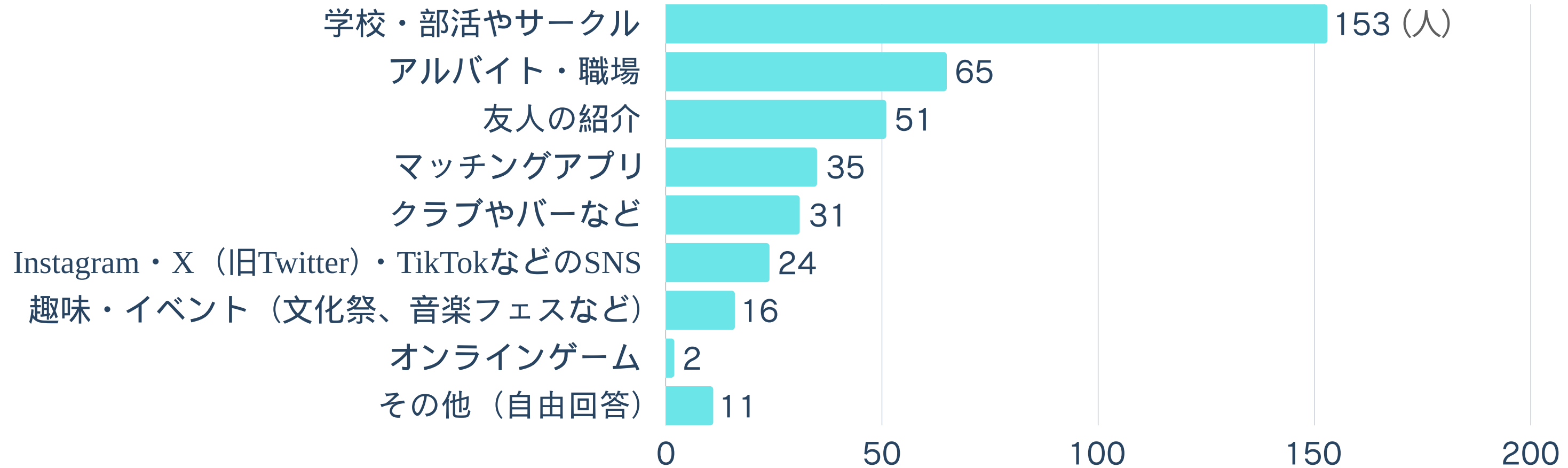
その他（自由回答）

- ・女子同士なので使わない

Q13.「セックス（性交）」の経験が「ある」と答えた方

Q18. セックスの相手と出会ったきっかけは何ですか？
(複数回答)

228人回答／405人中



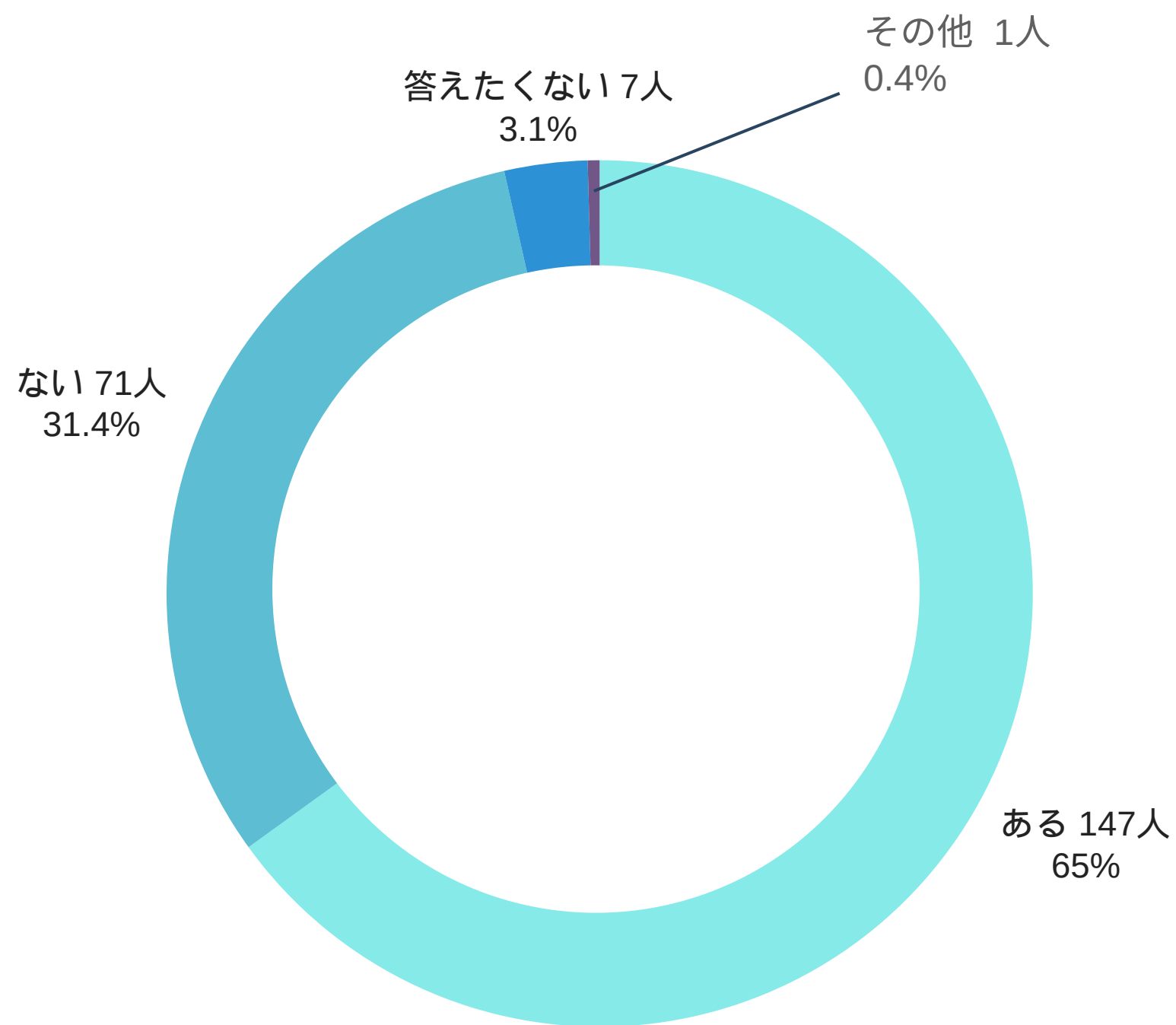
その他 (自由回答)

居酒屋／旅行／飲み場／結婚式の2次会／道案内／カフェ／風俗／
ビーチで声をかけられ、付き合い初めて1年経った頃に初めて性行為した

Q13.「セックス（性交）」の経験が「ある」と答えた方

Q19. これまで「セックス」をした相手と、安全な避妊方法について話をしたことがありますか？

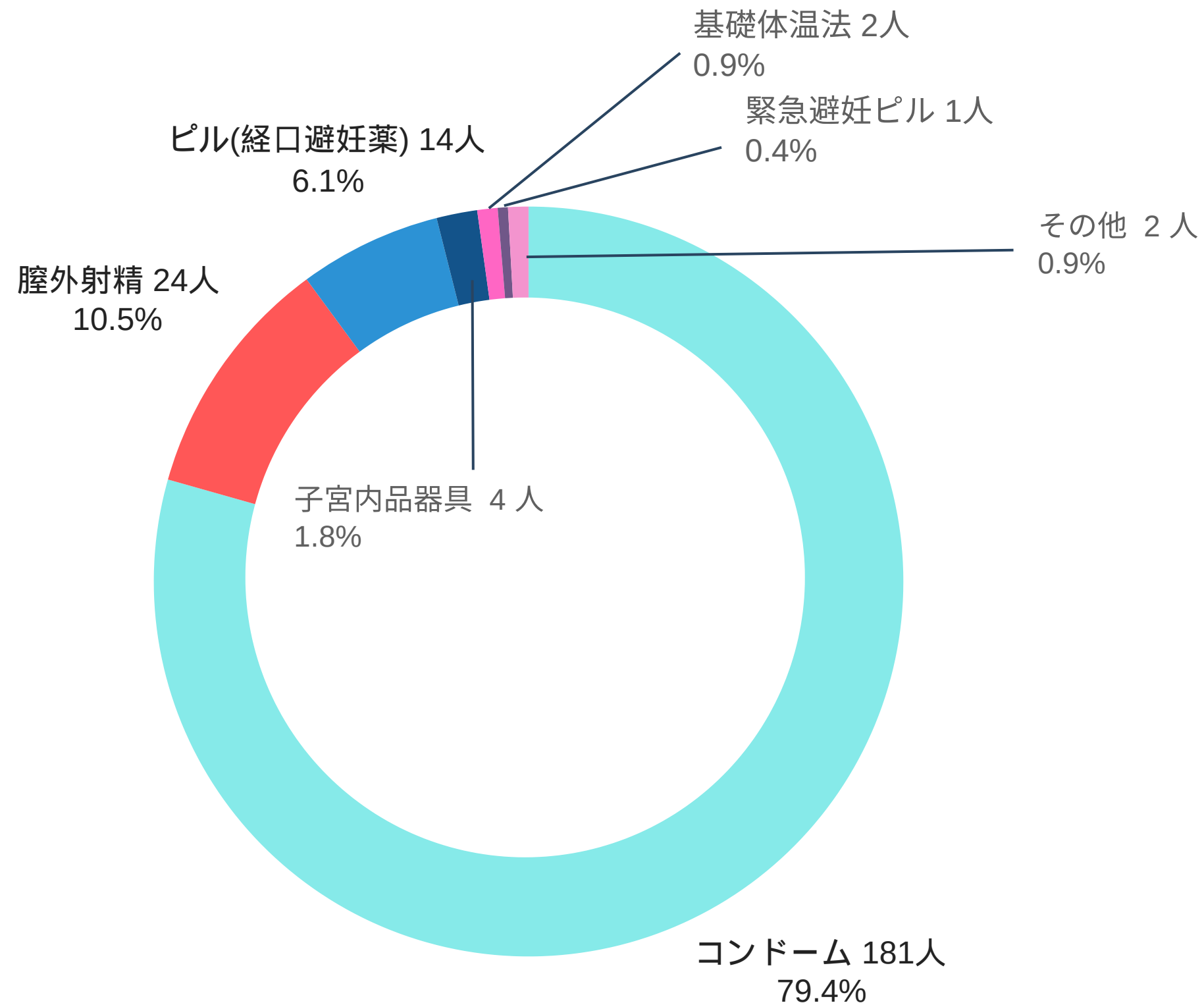
226人回答／405人中



その他（自由回答）

- ・女子同士なので妊娠しない

Q13.「セックス（性交）」の経験が「ある」と答えた方
Q20. あなたのふだんの避妊方法はどれですか？



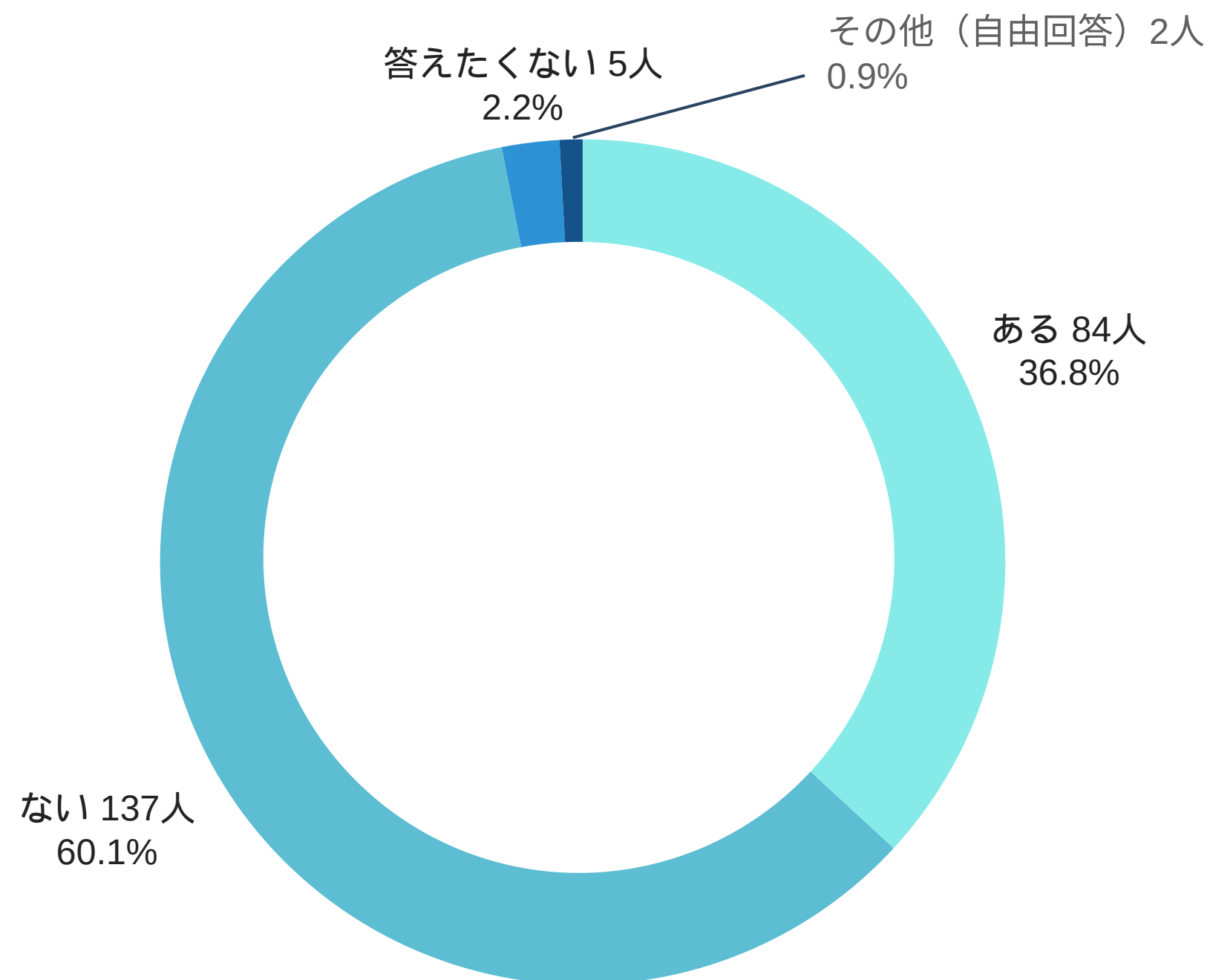
その他（自由回答）

- ・女子同士なので妊娠しない
- ・使っていない

Q13.「セックス（性交）」の経験が「ある」と答えた方

Q21. 避妊に失敗したと思ったことがありますか？
(複数回答)

228人回答／405人中

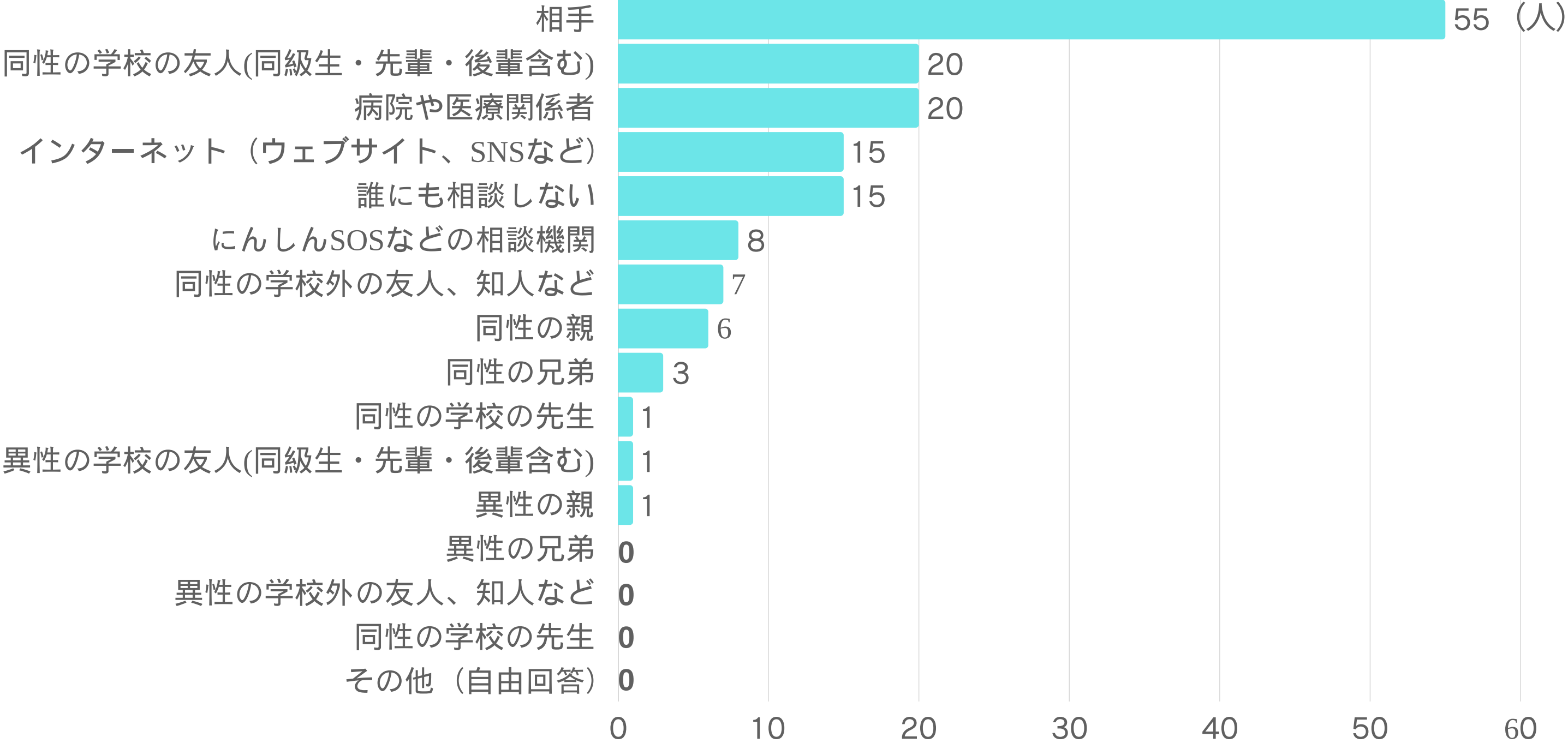


その他（自由回答）

- ・ゴムはつけたけど次の生理がくるまでほんとに避妊できてるか不安だったことはある。

Q13.「セックス（性交）」の経験が「ある」と答えた方
Q22. 避妊に失敗したと思ったとき、誰かに相談しましたか？
（複数回答）

84人回答／405人中



お詫びと訂正

フォーラムにて配布いたしました当団体提示のアンケート結果の一部に誤りがございました。
以下のとおり、正しいデータを訂正の上、ご報告申し上げます。

訂正②：設問22、避妊に失敗した時の相談先について(複数回答OK)

正

医療機関：約24%
誰にも相談しない・ネット検索：各約18%
にんしんSOSなど相談機関：約9.5%

誤

医療機関：9%
誰にも相談しない・ネット検索：各6.5%
にんしんSOSなど相談機関：3.5%

今後は、アンケートの分析において、より正確かつ誠実な情報提供に努めてまいります。
このたびはご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

考 察

01 属性より

男性でも女性でもない」「ノンバイナリー」「わからない」と6人が回答したことも注目したい。

02 セックス経験者の初体験

- 19歳までに・・・70%、13歳未満・・・10名。
- 10代で初体験は普通のことと再認識。13歳までに経験した10名の背景が気になる。性交に至る前に正しい性教育がなされるべき、と考えれば、高校生になる前（中学時代）の段階で、正しい性教育の実践が必要。

考 察

03 セックスに関する相談相手

セックスに関する相談相手は「友人やパートナー」に偏っており、専門的支援へのアクセスは極めて少数。

- 友人やパートナー：79%
- 誰にも相談しない：25%
- インターネット頼り：19%

高校1クラス（40名）に例えると：

- 31人が友人・恋人など仲間内で解決
- 10人が誰にも言えず
- 7人がネット頼り

※複数回答可のため100%お及び人数は超える。

おそらく、正しい解決策にたどりつくのは難しいだろうと想像できる。

考 察

04 避妊に失敗したときの相談

医療機関に相談すると回答した人が約24%いたのは、まだ救いと言える。一方で、「誰にも相談しない」や「ネット検索」がいずれも約18%と高く、「にんしんSOSなどの相談機関」を選択した人は9.5%にとどまった。

なお、この設問は複数回答可であるため、これらの傾向が重なっている可能性もある。つまり、「誰にも相談せず、ネット検索で解決しようとする」ようなケースも想定され、適切な支援につながらないリスクが浮かび上がっている。

05 これまで学校で受けた性教育で、「役に立った」と思ったこと学校の授業で教えて欲しかったこと、またはこれから知りたいこと

どちらも同じ「避妊方法と性感染症の予防」が上位だった。つまり、このテーマをきちんと学びたいし、必要だと感じていることの表れである。

考 察

06 避妊方法について

約3割の生徒が「膣外射精（外だし）」を避妊方法として認識しており、これは“外だし＝安全”という誤解が依然として根強いことを示していて、予期せぬ妊娠のきっかけを生んでいると考えられる。

07 性交同意年齢について

令和5年の刑法改正により性交同意年齢が16歳未満に引き上げられたが、本調査ではその正答率はわずか15.8%にとどまった。

「18歳」「13歳」などの誤答や「わからない」との回答も多く、法的知識の浸透がまだ十分ではない実態が明らかとなった。

性的同意の考え方や、改正の背景にある「子どもを守る」視点を、教育や支援の中で丁寧に伝えていくことが重要である。

考 察

08 経験人数について

セックスの経験があると答えた人の中では、「1～5人」と回答した人が多くを占めており、比較的少数の相手との関係にとどまっている傾向が見られる。

一方で、性体験人数が多い層では、初体験年齢が比較的低い傾向があり、特に13歳以下での初体験が目立つ点については、性的同意の有無や交際関係、被害的な体験など、数字だけでは見えてこない背景を丁寧に読み解く必要がある。

このような傾向は、早期の性体験がその後の性行動に影響を与える可能性を示唆しており、性教育や支援体制の充実において重視すべき視点といえる。

なぜ、早期に性体験を求めるのか。そこには、生育歴における愛着形成期の不十分さ、すなわち「愛着障害」が背景にあるケースも少なくないと考えられる。親子関係の中で十分な愛着が形成されなかったことにより、親以外の相手を早期に求めてしまう行動につながっている可能性がある。

このように、幼少期の親子関係の重要性が改めて浮き彫りとなり、社会全体で子育て支援に取り組む意義が、ここにも見いだされる。

考 察

09 避妊方法について

コンドームやピルについての知識（名称）は広く浸透している一方で、実際に使用されている避妊方法はコンドームに大きく偏っており、ピルの利用は極めて少ないのが現状である。

この背景には、経済的負担や医療アクセスのハードル、対等な関係性の構築の難しさなどが影響しており、単なる知識の提供にとどまらない、実践的な性教育と支援体制の整備が求められている。

中高生においては、特に男子に顕著だが、「低用量ピル」と「緊急避妊ピル」の違いをきちんと理解できていないことが多い。

また女子は、副作用に関するマイナスの情報によって不安を感じやすく、「女子が自分の意思で選べる避妊方法」であるという意識が低いため、避妊を男子任せにしている現状も見受けられる。

こうした状況を踏まえると、義務教育を終える中学3年生までに、正しい知識と主体的な意識を身につけてもらう性教育の実施が必要である。

考 察

10 「避妊しているのに、不安は尽きない」 ——知識と相談環境のギャップから見える若者のリアル

避妊法として79.4%がコンドームを使用していると回答する一方で、性交経験者の約半数が「正しく使えているか不安」と回答し、さらに約37%が「避妊に失敗したと思ったことがある」と答えている。

これは、「使っているけれど自信がない」「避妊できているかわからないまま不安な日々を過ごしている」若者が少なくないことを意味する。自由記述には「つけたけど、生理が来るまで不安だった」といった声もあり、避妊が“安心”につながっていない現状が浮かび上がる。

さらに、「セックスに関する相談相手」の内訳を見ると、、、最も多かったのが同性の学校の友人やセックスした相手など身近な人で、次に多かったのが「誰にも相談できない」、続いて「インターネットに頼る」といった回答が見られました。

つまり、正しい知識を持っているとは限らない同世代同士でのやりとりが大半を占めており、保健室・専門家・医療機関などの専門的な支援にアクセスしている若者はごく少数という深刻な課題が見えてくる。

特に、「彼氏や彼女に不安を相談している」という場合も、同じように曖昧な知識のまま対処し合っているケースが多く、間違った情報や思い込みが共有されてしまう危険性もある。

YOUTH

**ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。
本アンケートは大変貴重な報告となり、スタッフ一同、
深く感動しております。
いただいたお声を、今後の活動にしっかりと反映してまいります。**

**調査主体：沖縄県（沖縄こどもの貧困緊急対策事業「保健に関する相談支援事業」
実施団体：一般社団法人沖縄いのちにエールを贈る会**

SURVEY